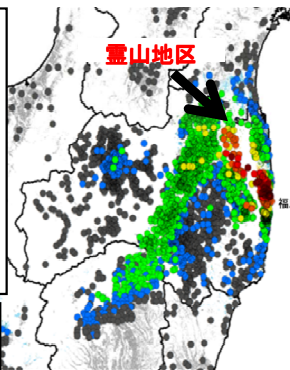
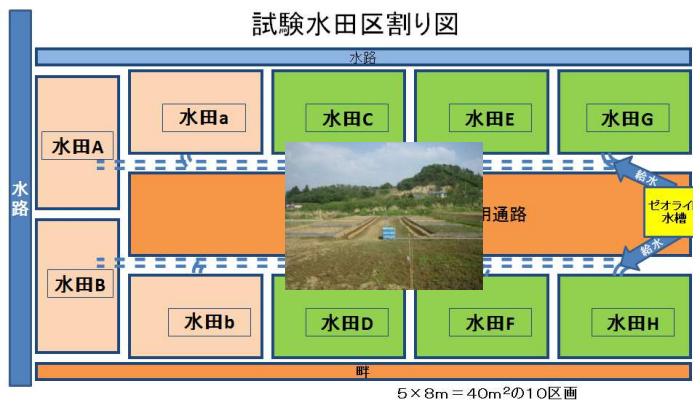


1. 活動の目的

霊山地区は2011.3.11福島原発事故の影響を受け、代々受け継がれている肥沃な水田が汚染され、稲作再開が出来ない状態である。農業に携わる人々は自分たちで納得のいく除染方法を望んでいる。当協会が代かき、汚染微細土壌の竹炭粉への吸着、加量管理、マツパイの植生等により、稲粒への汚染物質移行の低減作業をおこなう。また将来そこで生活する上で何が望まれているかなど、地域の人々が活力取り戻し、生き甲斐を感じられるよう支援活動を進める。

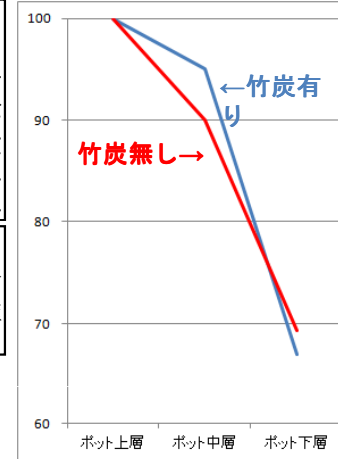


2. 霊山試験水田 一反歩(約1,000a)の提供を受けた) 10区画に分け試験条件を変え除染効果の確認を実施した。



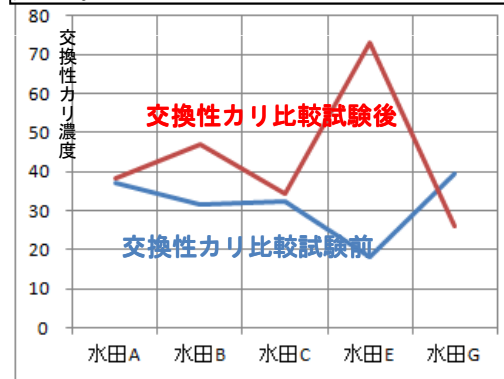
4. 竹炭の単体特性試験

汚染土壌に竹炭を微細粒子化し、ほぼ墨汁状態にしてポットに入れ、攪拌、沈殿させ、層間の放射能濃度分布を測定した。竹炭無しの場合より竹炭有りの方が上層が高い値を示した。これは竹炭の吸着能力が高いため、放射性物質を含む微細土壌粒子が吸着され、微細土壌が浮上するために上層ほど放射能濃度が高くなると考えられる。



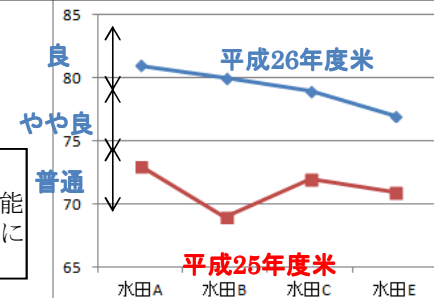
5. 交換性カリ量の管理

水田土壌中の交換性カリ量は、稲粒への放射性物質の移行に影響を与えるため、水田の濃度管理をおこない適正値を確認した。



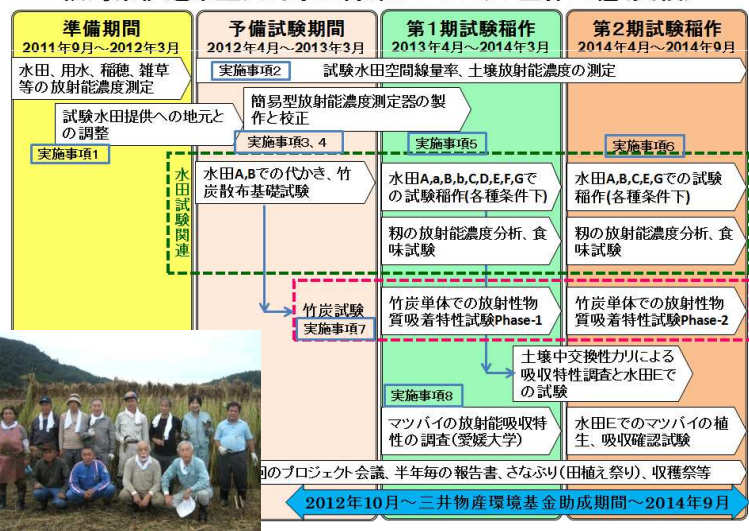
7. 食味試験

諸条件を変えても食味は悪くはならなかった。米粒の整粒(完全粒)、未熟米(粉状質)の値もよく、品質の良い米となった。



3. 実績工程と作業内容

福島県伊達市霊山町水田除染プロジェクト全体工程(実績)

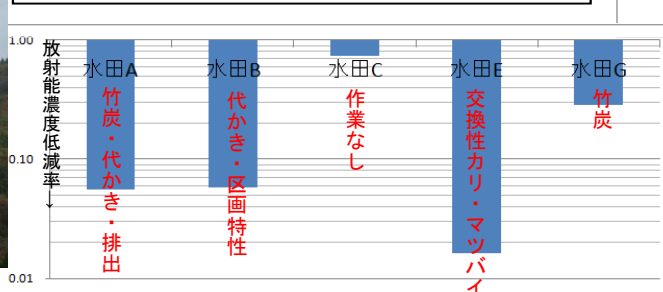


紅葉の霊山



6. 籾の放射能濃度

平成26年度収穫米は、平成25年度との比較で放射能濃度が、米の味も悪くならず、一連の処理により大幅に低減した。



8. 明日につながる地元支援活動

地元からは「東日本大震災がなければ皆様方とこのように形で交流が出来なかった。地区の再生に気付きを与えてくれた。震災で唯一良かったことだ！」とのお言葉を戴いた。復興庁「新しい東北」先導モデル事業(食とエネルギーの循環を活用した戦略的農業ビジネス展開事業:小国ブランド農産物栽培事業、加工食品製造事業、道の駅での販売、エネルギー燃料・肥料事業それらに向けての体制作り)が採択され、あんば柿の除染、地元小学生への再生可能エネルギーの判りやすい教育等々地元支援活動の輪が広がった。